令和5年度　学校経営計画に対する中間評価

集計結果で、〈 〉はR4中間評価　のデータ

石川県立野々市明倫高等学校 №1

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備　考
1 ICT の効果的な活用や様々な学習形態を工夫することで、主体的・対話的で深い学びを実現し、論理的思考力、批判的思考力及び課題発見・解決能力を育成する。	① ICT機器による Googleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションを積極的に活用し、効果的な使い方を研究し、授業改善を実践する。	教務課 各教科	ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用により、学習効果が高まった(aよく＋bやや)と感じている生徒の割合が、 A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	※今年度新規目標 84．4%　A　(a36．7%＋b47．7%) 1年　80．8%　B　(a26．4%＋b54．4%) 2年　90．6%　A　(a48．2%＋b42．4%) 3年　82．1%　B　(a37．6%＋b44．5%)	a評価＋b評価が84．4%となり、A評価を達成した。授業やその他の様々な場面において、生徒側も教員側も、ICT機器によるGoogleClassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用が増え、効果的な使い方にも慣れ、本校においてICT機器活用が大きく浸透していることがうかがえる。今後は現状に満足することなく、生徒と教員が共に有効なICT機器活用を模索し、生徒の学力向上に繋げていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② グループワークやペアワークなどの授業形態を積極的に取り入れ、生徒の対話の場面を作り、教師による講義中心型の授業からの脱却を図る。	教務課 各教科	日々の授業において、グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面を(a多く＋b時々)設定している割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	※今年度新規目標 71．2%　B (a 32．7%　＋　b 38．5%)	a評価＋b評価が71．2%でB評価となった。よって、教員による講義中心型の授業からの脱却はある程度は図られていると言える。ただし、「c あまり当てはまらない」が26．9%、「d 全く当てはまらない」が1．9%であり、まだまだ教員側の意識の改革が必要な部分も認められる。最終評価でA評価となるように、先ずは、c評価やd評価と評価した先生方が毎回の授業で1回でも2回でも意識して、失敗を恐れず、グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れることから始めることが大切であると思われる。また、お互いの授業を参観して意見交換することも大切であると思われる。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を積極的に設けることで、論理的思考力や批判的思考力を育成する。	教務課 各教科	日々の授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を(a多く＋b時々)設定している割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	※今年度新規目標 73．1%　B (a 26．9%　＋　b　46．2%)	a評価＋b評価が73．1%でB評価に留まった。上記の重点目標1の②と同様な結果となった。重点目標1の③は重点目標1の②の「教師による講義中心型の授業からの脱却」に通ずる部分がある。中間評価からは、現状、日々の授業において、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面がある程度多く設定されていることがうかがわれるが、「c あまり当てはまらない」が25．0%、「d 全く当てはまらない」が1．9%となっている。最終評価でA評価になるように、今後は、再度、全教員で共通理解を図り、授業において試行錯誤する中で、教員間の情報交換を密にしながら授業改善を図っていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）	判定基準	備　考
2 個別面談や探究活動を中心とする学習活動を通して生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期から進路調べやキャリア教育を積極的に行うことで、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① きめ細かい個人面談、進路調べ、キャリア教育などを通じ、生徒の進路意識を高め、自ら能動的に進路目標を設定し、学習に向かい、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	進路指導課 学年 教科	面談や進路学習を通して、自らの進路選択に関する知識を十分に得ることができた（aよく＋bやや）とする生徒の割合が、 Ａ 90％以上 Ｂ 85％以上 Ｃ 80％以上 Ｄ 75％以上	※今年度新規目標 80．4％　Ｃ（a26．0％＋b54．4％） 1年 74．3％ Ｄ（a21．2％＋b53．1％） 2年 84．0％ Ｃ（a26．8％＋b57．2％） 3年 84．2％ Ｃ（a31．4％＋b52．8％）	興味のある学問分野・学部学科についての話題を面談のポイントの一つにおく取組を進めている。また、オープンキャンパスへの参加課題や大学見学ツアー、大学出張講義なども生徒への良い刺激になっている。また、進路情報提供用のGoogleClassroomを設置し、個々の生徒に外部から提供される参加型プログラムや大学等の進学情報を届ける取組を開始した。しかしながら、関心を持って自ら情報を得て参加しようとする生徒と、関心を持たない生徒の差が大きく、より関心を高め参加を促す情報提供のあり方を考える必要がある。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 探究的な活動を通して、生徒が課題を発見し、解決策を模索することで、自らの興味関心や適性を自覚し、将来社会に貢献できる人材となるよう、取組を工夫する。	探究推進室	総合的な探究の時間の活動、特に課題解決学習活動を通して、社会問題により関心が高まり、将来の進路目標が以前と比べより明確になった（aよく＋bやや）と感じている生徒の割合が、 Ａ 80％以上 Ｂ 70％以上 Ｃ 60％以上 Ｄ 60％未満	※今年度新規目標 76．8％ Ｂ（a26．0％＋b50．8％） 1年 75．6％ Ｂ（a26．4％＋b49．2％） 2年 82．4％ Ａ（a26．8％＋b55．6％） 3年 72．1％ Ｂ（a24．5％＋b47．6％）	3学年ともほぼ同じような評価結果であった。3年生は今後卒業後の進路実現に向けて目標がより具体化されると思われる。1、2年生は今年度から本格的に導入するエナジード（総合的な探究の時間のデジタル教材）と探究活動（1年生は野々市市PR動画作成、2年生は明倫グローカルプロジェクト）を通じ、社会問題により関心を向けさせることによって、進路目標もより明確にさせていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 手帳等の活用により、生徒が自らの行動等について、先を見通したり振り返ったりする力を身に付けさせ、進路実現に向けての意欲や主体性を育む。	教務課 各教科	手帳等の活用により、進路実現に向けて自律的に行動する意識が高まった（aよく＋bやや）と考える生徒の割合が、 Ａ 80％以上 Ｂ 70％以上 Ｃ 60％以上 Ｄ 60％未満	※今年度新規目標 50．4％ Ｄ（a17．4％＋b33．0％） 1年 50．5％ Ｄ（a17．9％＋b32．6％） 2年 49．1％ Ｄ（a15．6％＋b33．5％） 3年 52．0％ Ｄ（a18．8％＋b33．2％）	a評価＋b評価が50．4％で、60％を大きく下回った。一方、「c あまり当てはまらない」が36．2％、「d 全く当てはまらない」が13．4％であった。全学年に一斉に手帳を導入したのは今年度の4月からであり、手帳の有効性を生徒が実感するにはもう少し時間がかかるようである。今後は各学年で手帳の使い方の工夫や有効性等について、具体的な指導を徹底し、生徒の進路実現に向けて自律的に行動する意識を高めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	3年生：1学期末に生徒が志望した学問分野・領域等と、進学先の学問分野・領域等が一致している割合が Ａ 80％以上 Ｂ 65％以上 Ｃ 50％以上 Ｄ 50％未満	※今年度新規目標 年度末に集計	担任を中心に、今後、生徒自身が関わっていきたい分野について深く考え、学部学科を定め、合格のための具体的な学習手立てを自ら考えるよう、面談を進めている。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
			3年生：1学期末に生徒が志望した第1希望又は第2希望の進学先（大学・学部・学科、専門学校・専攻等）に進学できた割合が Ａ　７０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上	※今年度新規目標 年度末に集計	本年度より、平日補習の一部教科について、教科の担当教員から示された学習レベルや内容に対し、生徒自身がそれぞれの進路に合わせ選択する希望選択制を導入した。今後も生徒の現状と志望に対し最適化した取り組みを考えていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
			1・2年生： 学力を向上させることができた生徒の割合が Ａ　６５％以上 Ｂ　５５％以上 Ｃ　４５％以上 Ｄ　４５％未満	※今年度新規目標 年度末に集計 ※総合学力テストの国数英3教科総合の全国偏差値で比較 （1年は7月と1月、2年は1年7月と2年1月）	模試の分析方法として、小問得点率や設問別ランクなどの利用を進めている。より効果的な補習や課題、授業改善につながるように取り組んでいきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 1月総合学力テストの結果で判断する。
			1・2年生：年度末において、 卒業後の学びたい学問分野・領域等（将来やりたい仕事等）が年度当初に比べて明確になった生徒の割合が Ａ　７５％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	※今年度新規目標 「進路に関するアンケート」（7月20日実施） 「現在の進路がどの程度明確か」について、 「はっきりした」、「ある程度はっきりした」と答えた割合が、 44．7％　Ｄ 228名（回答者510名）	夏休みのオープンキャンパス参加課題など、生徒自身が進路を考える機会を重視した取組は進んでいる。しかし一方では、生徒自身の教科への苦手意識や不得意科目分野が生徒の能動的な進路選択の妨げとなっており、教科との連携が課題となっている。模試の分析を利用した苦手分野の克服などを通して、進路選択の幅をせばめることがないよう進めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に生徒アンケートにより評価する

重点目標		具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備　考
3	教職員はICTを効果的に活用し、生徒の教育活動における個別最適化を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① ICT教育支援サービスを活用したり、課題を精選するなどし、個別最適な学びの実現を目指す。	各学年	ICT教育支援サービスを活用したり、朝学習や課題に取り組むことで、自らの学力を高めることができた(aよく＋bやや)と考える生徒の割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	※今年度新規目標 76．5%　B　(a23．8%＋b52．7%) 1年　72．9%　B　(a23．1%＋b49．8%) 2年　80．6%　A　(a26．5%＋b54．1%) 3年　76．8%　B　(a21．8%＋b55．0%)	【1年】各教科では、生徒の現状に合った教材を課題として提供し、学年では「到達度テスト」の結果をもとに各生徒の学力に応じて配信される課題に取り組ませた。今後も継続していく。 【2年】毎週金曜の朝学習において、次年度の共通テストを見据え、スタディサプリで教科「情報」に取り組んでいる。また、各教科の課題として利用し、生徒の理解を深めるために活用している。 【3年】6月の県総体総文後に、朝学習の科目を生徒の学力や志望に応じたものに変更した。スタディサプリの活用については、教科・科目に偏りが見られるので、改善を心がけたい。	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
		② 採点省力化ソフトを積極的に導入し、採点・分析・評価・返却に要していた労力を削減する。	教務課	採点省力化ソフトを活用し業務の効率化を図ることができた(aよく＋bやや)と考える教員の割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	※今年度新規目標 94．1%　A (a　62．7%　＋　b　31．4%)	a評価＋b評価が94．1%となり、90%を超え、A評価を達成した。採点省力化ソフトが業務の効率化に大きく貢献していると判断できる。今後はa評価の占める割合をさらに増やし、a評価＋b評価が100%になるように、採点省力化ソフトを積極的に活用し、業務の効率化を図っていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
		③ 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。	副校長 教頭	時間外勤務が80時間を超える教員の月平均の人数が A　0人 B　2人未満 C　3人未満 D　3人以上	4～7月平均4．5人　D 〈昨年度4～7月平均 6.8人　D〉 (単位:人)　4月5月6月7月8月9月10月11月12月　平均 80時間以上　8　5　1　4　4.5 うち100時間以上　1　2　0　1　1.0 〈昨年80時間以上10　8　5　4　1　7　5　3　0　4.8〉	4～7月の長時間勤務者数の平均は4．5人で、昨年度の6．8人と比べ減少したもののD評価となった。 定時退校日の毎月2回の設定・実行、採点省力化ソフトの利用やGoogleフォームを利用したアンケート集計等など業務負担軽減に向けたICT活用、県教育委員会事務局産業医による長時間勤務者に対する面接指導の実施等により教員の意識改革に努めているが、時間外勤務が月80時間超、月100時間超の教員が一定数いる。 学期はじめや部活動の繁忙期に時間外勤務の増加が見て取れるので、今後は、授業や校務、部活動指導に見通しを持ちながら、ICTのさらなる活用をはじめとした業務改善や業務の偏りの是正等に取り組み、多忙化改善につなげたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	勤務時間記録により年度末に評価する。
4	部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。	総務課	学校行事やPTA活動で保護者が来校した・または職員とのやりとりを電話などでした回数の平均が2回以上の割合が A　70%以上 B　60%以上 C　50%以上 D　50%未満	来校または職員とのやりとりした回数が 5回以上　4.3%　〈5.8%〉 4回　3.9%　〈1.9%〉 3回　13.3%　〈14.1%〉 2回以下　78.5%　〈78.1%〉 今回2回以下の学年の内訳がないため、次回確認予定	3回以上来校または職員とのやりとりをされている保護者が21.5%である。昨年の同時期と同じような数字である。7月までに保護者懇談、進路説明会、総会、学年説明会、入学式、挨拶運動があり、1～2回足を運んで頂いている。8月には明倫祭に多数来校された。11月には教育ウィークがあるので、来校または職員とのやりとりを通し学校での活動や生徒たちの様子を知ってもらいたい。	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
		② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	ホームページ上のアクセス数が月間平均で A　30,000以上 B　25,000以上 C　20,000以上 D　20,000未満	ホームページのアクセス数は　(単位:件数) 4月　36,343　〈36,477〉 5月　38,456　〈41,218〉 6月　46,122　〈36,124〉 7月　43,974　〈44,730〉 月間平均　41,224　〈39,637〉　A評価	各課・学年行事や部活動について毎日何らかの更新ができるよう呼び掛けている。今年度は学校をより身近に感じてもらえるよう教職員リレーブログを立ち上げた。先生方は忙しい中、楽しい情報を上げてくださっている。広報委員の画像も記載している。今後も記事の内容についてPTAの意見等を伺い工夫を続けていく。	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
		③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	生徒課	1,2年生の部活動の加入率が A　90%以上 B　85%以上 C　83%以上 D　83%未満	93．3%　A　〈93.1%〉 1年99.4%　〈96.7%〉 2年86.0%　〈88.7%〉	１年生は全員が何らかの部活動に登録することになっていることから、部活動の加入率は高いが、設備以上の多人数が入部している部活動もあり、充分な活動ができていない課題がある。また今年度は１年生の中で、部活動を転部する生徒が多くなっている傾向がある。	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。
		④ 生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう推進する。	生徒課	委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒(aよく＋bやや)の割合が A　95%以上 B　85%以上 C　75%以上 D　75%未満	65．8%　D　(a24．3%＋b41．5%) 〈64．2%〉 1年　64．2%　D　(a22．8%＋b41．4%) 2年　72．3%　D　(a24．1%＋b48．2%) 3年　60．7%　D　(a26．6%＋b34．1%)	昨年度から新しく導入した目標であるが、コロナウイルスによる規制が落ち着いた現在、今一度、各委員会の担当の教員や生徒に委員会活動の大切さを理解してもらうとともに、生徒が積極的に地域行事に取り組むよう努めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備　考
5 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた(aよく＋bやや)生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	85.6% A (a36.2%＋b49.4%) 〈84.3%〉 1年 82.4% A (a31.9%＋b50.5%) 2年 91.5% A (a40.1%＋b51.4%) 3年 83.5% A (a37.6%＋b45.9%)	新型コロナ対策のため、声を出して挨拶をする機会が減っていたと思われるが、生徒の「当てはまる」の割合は高くなっている。しかし、教員や保護者からは同じように感じていない意見もあるので、生徒主導の挨拶運動を企画したり、さらには教員側からも積極的に生徒へ挨拶するよう努めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課 各学年	制服を意識的に正しく整えている(aよく＋bやや)生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上	97.5% A(a69.0%＋b28.5%) 〈97.9%〉 1年 99.0% A (a74.9%＋b24.1%) 2年 96.5% A (a70.0%＋b26.5%) 3年 96.5% A (a59.8%＋b36.7%)	制服着用の際のセーターやシャツ等の組み合わせを多様化したことにより、生徒はしっかりと着用できていると感じているようだ。ただ、制服の着こなしについては、様々な意見もあり、今後教員間で共通理解をもって指導できるよう努めていきたい。	B以下の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している(aよく＋bやや)生徒の割合が A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	94.3% C (a64.7%＋b29.6%) 〈92.6%〉 1年 96.1% B(a62.5%＋b33.6%) 2年 95.7% B(a71.7%＋b24.0%) 3年 90.4% C(a59.8%＋b30.6%)	自家用車との接触事故の発生や一般の歩行者からも注意の電話を受けており、自分だけでなく他者の命を守るためにも交通ルールの遵守について継続して指導していきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒(aよく＋bやや)の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	68.9% B(a27.4%＋b41.5%) 〈59.5%〉 1年 68.7% B(a27.7%＋b41.0%) 2年 72.0% A(a24.5%＋b47.5%) 3年 65.5% B(a30.1%＋b35.4%)	昨年度雨天中止となってしまった反省から、今年度は学校全体や部活動単位で複数回活動ができる新しいかたちでのボランティア活動を１０月に企画し、社会貢献への意識を醸成させていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	学校生活が楽しいと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	91.0% A (a48.4%＋b42.6%) 〈88.4%〉 1年 92.5% A(a50.8%＋b41.7%) 2年 91.1% A(a47.5%＋b43.6%) 3年 89.1% B(a46.3%＋b42.8%)	新型コロナウイルス感染症の規制がなくなり、イメージしていた高校生活を楽しんでいるのではないか。学習活動や行事がコロナ前にもどり、友人同士の交流が活発化すると、今後、学習や人間関係に悩む生徒が出てくると考えられる。2学期以降は大きな学校行事もないため、日常への不満や不安が表面化する。細やかな目配りが必要となる。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたのアンケートをとり、あてはまるの割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	96.3% A (a25.9%＋b70.4%) 〈94.2%〉	a「よく」が多少上昇したものの大多数がb「やや」と自己評価している。つまり「自分はもっと素早く察知して対応できる・対応したい」と思っているという結果である。この意識が早期発見早期対応の要であり、今後に生かされていくはずである。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑦ 定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。	保健環境課	環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	91.9% A (a47.3%＋b44.6%) 〈91.9%〉 1年 91.2% (a45.6%＋b45.6%) 2年 92.6% (a45.5%＋b47.1%) 3年 92.1% (a51.5%＋b40.6%)	アンケートの回答項目ａ「よく」とｂ「やや」の合計は、前年度とほぼ同じであった。全く当てはまらないと答えた生徒が、１年１．３％＝４人、２年０．８％＝２人、３年０．９％＝２人、全学年１％と少なく、清掃を真面目に取り組んでいる意識があると考えられる。今後は、真面目に取り組む意識を大切にしながら、清掃活動を生徒と共にする教職員が模範となる姿勢を見せつつ、環境美化に努められるようにしていきたい。	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書といった読書指導によって読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 5冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	0.9冊 D (8月末時点) 年度末に集計	新入生図書館ガイダンス、3年生の総合的な探究の時間(私がこだわる一冊)、総体・総文時の1年生の一斉読書など教科や各学年団と連携した取り組みを行い、読書に親しむ習慣を身に付けさせる努力をしたが、一人あたりの冊数にむすびつかなった。二学期も、図書館の行事や学年、教科に働きかけ、生徒の読書習慣の向上に努めたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。